

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

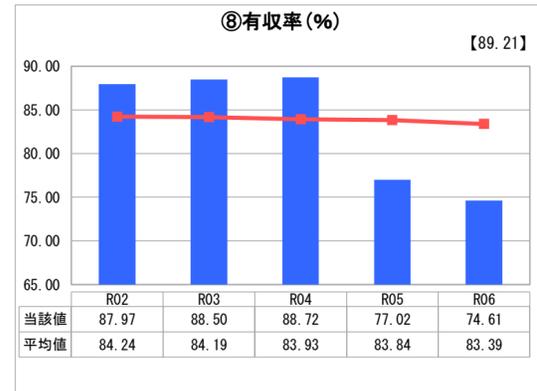
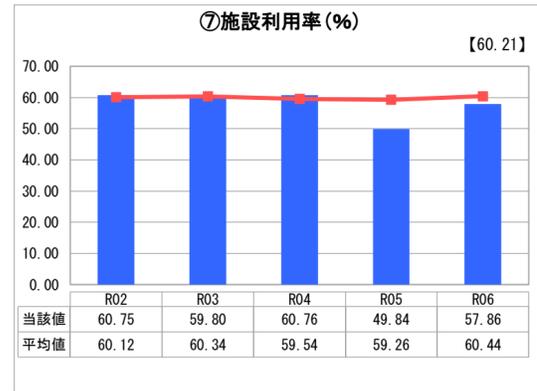
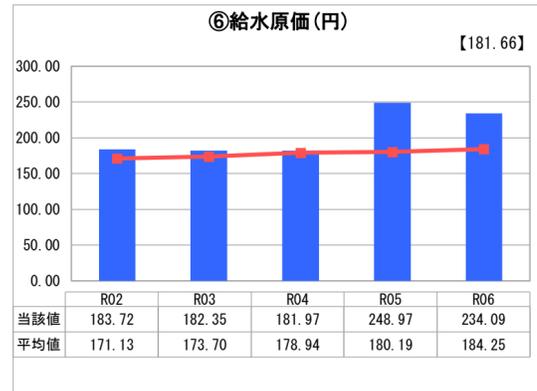
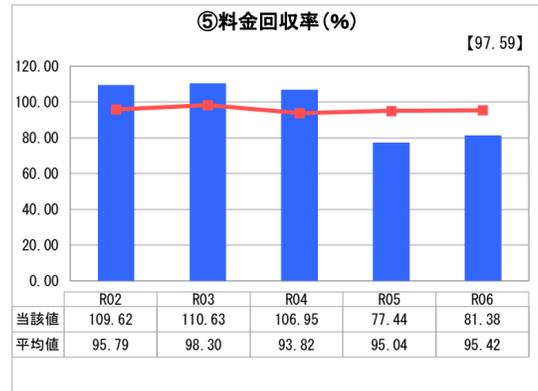
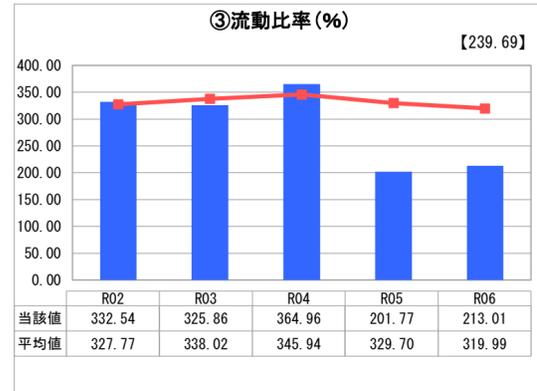
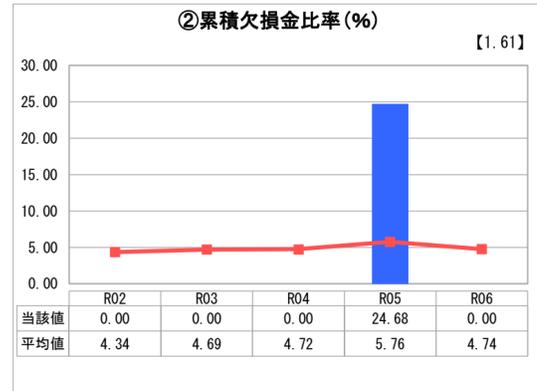
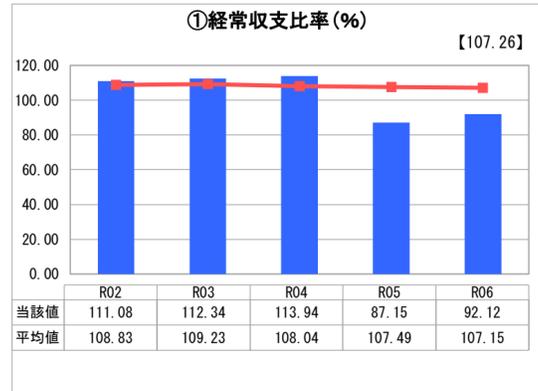
石川県 七尾市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	78.38	94.30	3,383	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
46,500	318.26	146.11
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
43,389	151.08	287.19

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

令和6年能登半島地震後から減少していた有収水量及び配水量は増加傾向にあるものの、大口需要者の営業停止や人口の減少による影響は大きい。

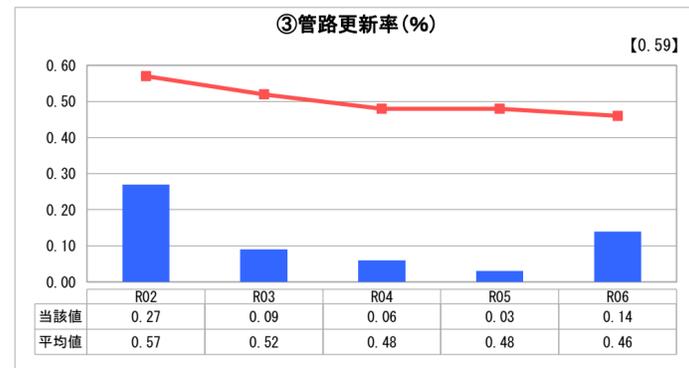
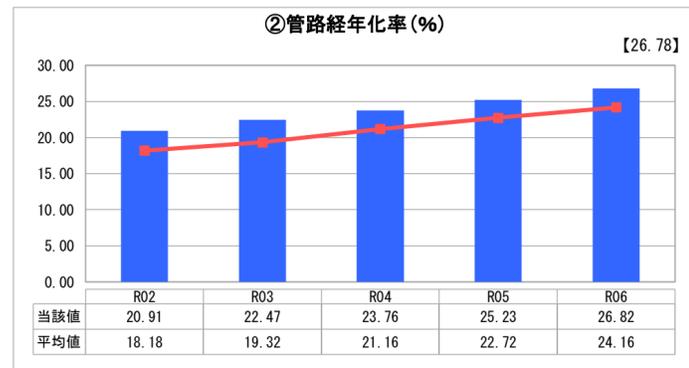
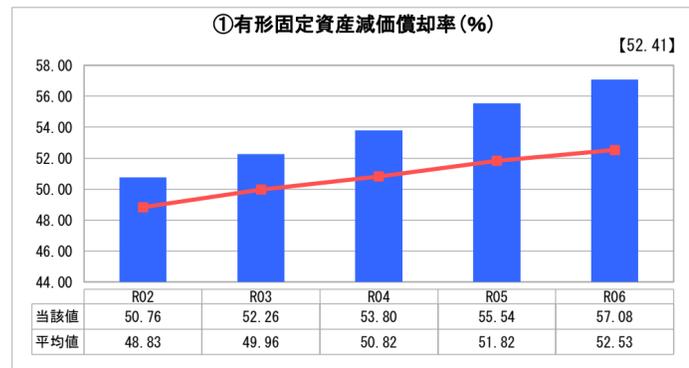
- ① 経常収支比率、⑤ 料金回収率及び⑧ 有収率については、令和5年度決算からやや増加している。また、② 累積欠損金は解消されたが、経営状況は厳しい状況が続いている。⑥ 給水原価についても災害による損失の影響が継続している。
- ③ 流動比率は、類似団体の平均より低いが100%を超えているため支払能力は確保されている。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、借入を抑制していたため類似団体の平均より低いが、今後自己財源が減少していくため、借入が増加し、類似団体程度まで比率が上がる事が予想される。
- ⑦ 施設利用率は、震災前の配水量まで戻っておらず、類似団体より低い状況となっている。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率及び② 管路経年化率は、年々耐用年数に達した管路が増加しており、今後も資産の老朽化が進むことが予想される。また、この老朽化の状況が震災による長期間の断水の要因だったと考えられる。
- ③ 管路更新率について、管路更新・施設更新を順次行っているが、更新費用を抑制していたため、類似団体の平均より低くなっている。

今後は、災害復旧を優先的に進めながら、石綿管及び老朽施設の更新等行っていく。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

震災後の人口の流出や事業所の未復旧などにより、中長期的に見て今後も給水収益の増収は難しい。  
また、施設の老朽化により維持管理費・更新費用の確保も必要である。  
H25年度から窓口業務を外委託し、業務の効率化・職員数削減・収納率向上を図っている。また、R3年度からは施設管理の包括委託を開始し、費用の平準化・経費削減に努めている。今後は有収率向上に向けて漏水箇所の探索等を行うとともに、老朽管及び施設の更新・整備等を計画的に行っていく。また、不用資産の売却の検討及び料金改定の検討も必要である。